

第1回 福知山市新文化ホール整備基本構想・基本計画検討委員会

会議録【概要】

【日時】 令和4年7月22日（金）15:00～17:30

【場所】 福知山市役所5階市議会全議員協議会室

【出席者】（委員）12名（別紙参照）欠席者1名（児玉真委員）

（事務局）地域振興部 大西部長

文化・スポーツ振興課 森田次長、西村担当課長、

西村課長補佐、増田主事

シアターワークショップ 伊東、真木

（関係課）建築住宅課 中川次長

都市・交通課 芦田担当課長

1 開会

2 開会挨拶

市長 :本市においては、平成31年に福知山市文化振興基本方針を策定し、本方針では、文化振興を行政だけではなく、まちづくりの主役である市民の皆さんや芸術家、事業者、団体等と一緒に取組んでいくことを定めている。また、市民の皆さんが気軽に文化に接し、参加できる文化活動の核となる文化ホールについて、新たな建設も含め検討することとしている。福知山市厚生会館は、開館以来、多くの市民の皆さんに親しまれてきた。しかしながら、開館から60年が経過し、施設本体設備の老朽化が進み、利用者のニーズに対応する改善も十分にできない状態となっている。

そのため、新たな文化ホールの整備に向け、早急に検討を進め、求められる役割、施設規模、機能や建設場所、運営方法などについて、検討委員や市民、関係団体などの意見も踏まえ、文化ホールの基本構想基本計画を策定していきたい。

新文化ホールの整備を契機として、本市の文化振興がより推進をされ、市民の皆さんの文化への機運が高まっていくことを大いに期待している。検討委員におかれては、本委員会設置の趣旨を理解をいただき、基本構想・基本計画の策定に向けて、力添えをいただくようお願いしたい。

3 委員紹介

委嘱状交付（机上配付）

4 委員会設置要綱及び委員長・副委員長の選出

委員長 本杉省三氏

副委員長 前田竹司氏

5 協議事項

- (1) 新文化ホール整備基本構想・基本計画検討にあたっての経過
- (2) 新文化ホール整備基本構想・基本計画検討内容について
- (3) 文化芸術に関する社会的潮流の分析
- (4) 厚生会館の現状と課題について
- (5) 新文化ホール整備基本構想・基本計画検討スケジュールについて

6 その他

7 閉会

【議事】

(1) 新文化ホール整備基本構想・基本計画検討にあたっての経過

○事務局より新文化ホール整備基本構想・基本計画検討にあたっての経過について説明

委員 : 2016年に当初予定していたより大幅に経費が超過することが判明し、厚生会館の改修工事見送りをした際、当初予定されていた経費と、それに対しどれほどの超過となることがわかったのか伺いたい。

事務局 : およそ10億円で改修を予定していたが、耐震改修が入ることで倍額となった。

(2) 新文化ホール整備基本構想・基本計画検討内容について

○事務局より新文化ホール整備基本構想・基本計画検討内容について説明

委員 : 当初予算に対して大幅に超過したという前回の計画の流れがあったということから、今回はそのようなことのないように十分議論する必要があるだろう。

(3) 文化芸術に関する社会的潮流の分析

○事務局より文化芸術に関する社会的潮流の分析について説明

委員長 : 今回の委員会の意義は、基本理念や施設の持つ役割を定義していくことであり、そこで必要な諸室や機能を導き出していくというもの。全国的なことだけではなく、福知山の状況を踏まえて考えることが必要である。劇場・音楽堂等に関心のない方に関心を持ってもらうということは非常に重要で、そのためにはより活動の幅を広げていくということが重要である。

委員 : ((2)に戻るが) どういう人たちが劇場に集うのかという「人」の部分、今後検討していく中で重点的に考えていくべきことなのではないか。

委員長 : 非常に重要なことである。文化振興基本方針にも、組織、運営が重要であると書かれている。「劇場に興味がある人」が来てくれることは当然で、「あまり関心のない人」人でも施設に来てもらえるようにという方針でスタートする。「文化振興基本方針」にも組織や運営等活動することが大事だと書かれている。基本方

針に示されていることを土台に考えていく必要がある。

委員 : 容積主義、稼働主義、都心主義の崩壊、持続可能性やエコについて、具体的に教えていただきたい。

事務局 : 容積主義、稼働主義の崩壊というのは、ネット配信等により、単なる来場者数だけではなく、その効果がどこまで広がっているのかということに観点を置き変えるべきではないかという意味である。都心主義の崩壊については、東京一点集中から地方へ分散し、創造的な活動をしている集団も登場していることにも注目すべきであるという意味である。

舞台芸術は創造を継続していくことが重要であり、それこそが文化となっていくため、長期的な視点を持つことが重要である。建築面からは環境負荷の低減も重要になっている。

(4) 厚生会館の現状と課題について

○事務局より厚生会館の現状と課題について説明

委員 : ソフト面に力を入れなければならないと考えている。文化芸術振興は一部の限られた方へのものではなく、広く社会に対して共有されるものであるので、幅広い視点を持った取り組みが必要である。一般の方からすると、なぜこのタイミングで建て替えをするのかわからないのではないと思われる。その理由を委員からも市民にはっきりと伝えることができるよう、聞かせていただきたい。

事務局 : 平成 28 年に計画が立ち止まってから、5 年余りが経過をしている。雨漏り等施設の老朽化の影響や、施設備品も含めて厳しい状態のため、現在検討を進めていく必要がある。

委員長 : 耐震性や音響性能も十分ではないのではないかと。建築音響の問題だけではなく、遮音性についても恐らく十分ではないだろう。また、静けきを得るためにも、空調性能にも課題があるだろう。そういった点について表現しておく必要があるだろう。

委員 : 雨漏りについて厚生会館の職員に話を聞くと、修繕はしているが老朽化により、根本的には直らないということであった。厚生会館は、実感としては予約が取りづらいので、需要はあるように思う。建設場所は現在の厚生会館の場所となるか。

事務局 : 建築場所については、今後ご検討いただく予定。現在の厚生会館の場所で決定というわけではない。

委員 : 文化振興基本方針の内容はどのようなものか。また、どういった方を対象とした施設とするのか。

事務局 : 文化振興基本方針で、文化活動の基盤となる施設のところで文化ホールについても触れている。新しい文化ホールはプロの公演会場としても、市民活動の発

表の場としても使用できる施設とする必要があると考えている。また、ソフト面の課題という部分について基本方針の中では、コーディネーター、コンシェルジュを設置して運営するという提案をしている。委員会にて運営の部分も含めてご検討いただきたい。

委員長 : 文化振興基本方針を私はホームページで見たが、委員もご存じないということは、広く市民の方々に広めていただく必要があるということである。

委員 : 厚生会館は水害の際の避難所となっていた。新文化ホールも、行政が作る以上は、避難所としての側面を持っているだろう。

委員長 : 水害時の避難所ということについては、2つの考え方がある。1つは水難の起こりそうな場所に建てるのはどうかというご意見。もう一つは逆に一時的な避難所として必要なのではないかというご意見。行政としては非常に難しい判断となるだろう。車椅子席はさまざまな場所に分散して作るというのが最近の考え方である。楽屋側にも、トイレ等も含めて設備が必要であるということが社会的に一般化されてきている。

事務局 : ヒアリングの際、障がい者関係の団体の方にご意見を聞かせていただく。

委員 : 施設の課題が挙がっているが、これ以外にも課題は多くある。厚生会館は多目的な建物で、その後体育館等が完成し、厚生会館で体育関係の事業を開催しなくなったため、現在は文化ホールとして使われている。新文化ホールの目的は何なのか検討が必要である。類似施設は他にもある。現状の課題をカバーするためにどんなホールを作るかということだけではなく、具体的な用途を考え、市民目線で納得できるものを検討したい。

委員長 : 非常に重要な発言である。市内の類似施設について、その概要や使用用途等の分析をもとに議論する必要がある。現在の厚生会館の稼働率は全国平均よりも低い。新文化ホールの必要性を多くの市民に納得していただくためには新文化ホールができることによる変化を示していく必要がある。そのためにも、類似施設を含めた分析が必要である。一日に6000人を集めたスイーツフェスティバルで駐車場がどのように使われたのかなど、詳細な情報が分かると、駐車場の必要性に関する議論の材料になる。現在の使われ方の中で特徴的なのが、諸室の同時利用の例が多いということ。幅広い活動のために作られた厚生会館の特徴が表れている。また、ホールを使いたくても使えない若い世代の方々を掘り起こしていくことが重要で、そのためのデータも必要である。それらを含めて、さらに大きな情報の分析を市でまとめていただきたい。

(5) 新文化ホール整備基本構想・基本計画検討スケジュールについて

○事務局より新文化ホール整備基本構想・基本計画検討スケジュールについて説明

委員 : ワークショップやアンケートで市民の方から意見を収集するというのは素晴らしい

しい取り組みである。利用者の方はほんの少しでもハードルがあると来場をやめてしまう。そういったハードルの下げ方、様々な方の来場の促し方について考えている専門家は関西にも多くいるので、繋げていきたい。

委員 : 8月以降のワークショップの日程は決定しているか。ワークショップに興味がある。検討委員の参加や見学は可能か。

事務局 : ワorkshopの日程は検討中。検討委員の方は、傍聴であれば可能である。

委員 : 最終的に新文化ホールを建設しないという選択肢は考えられるか。

事務局 : 基本的には、新文化ホールをつくるための検討を皆さんにお願いしたい。

委員長 : この場は、基本構想でどういった理念でどんな役割を持った施設をつくるのかということを定め、基本計画でさらに具体化する場であると認識している。

【次回会議】

第2回検討委員会は8月23日、火曜日。午前9時30分からとする。

以上